



責任ある水資源管理の実践へ

— AWSスタンダードと流域マネジメントの最前線

自社の水リスクを見える化し、流域単位で行動するための第一歩

目次

1. なぜ“水資源管理”が今必要なのか？
2. 流域を意識した水資源管理の必要性
3. 企業が直面する水リスクとその影響
4. Alliance for Water Stewardship(AWS)とは
5. AWSスタンダードの概要
6. AWS認証制度の概要
7. AWS認証取得状況
8. サステナビリティNaviのAWS支援サービス
9. JWS（Japan Water Stewardship）への参画

はじめに

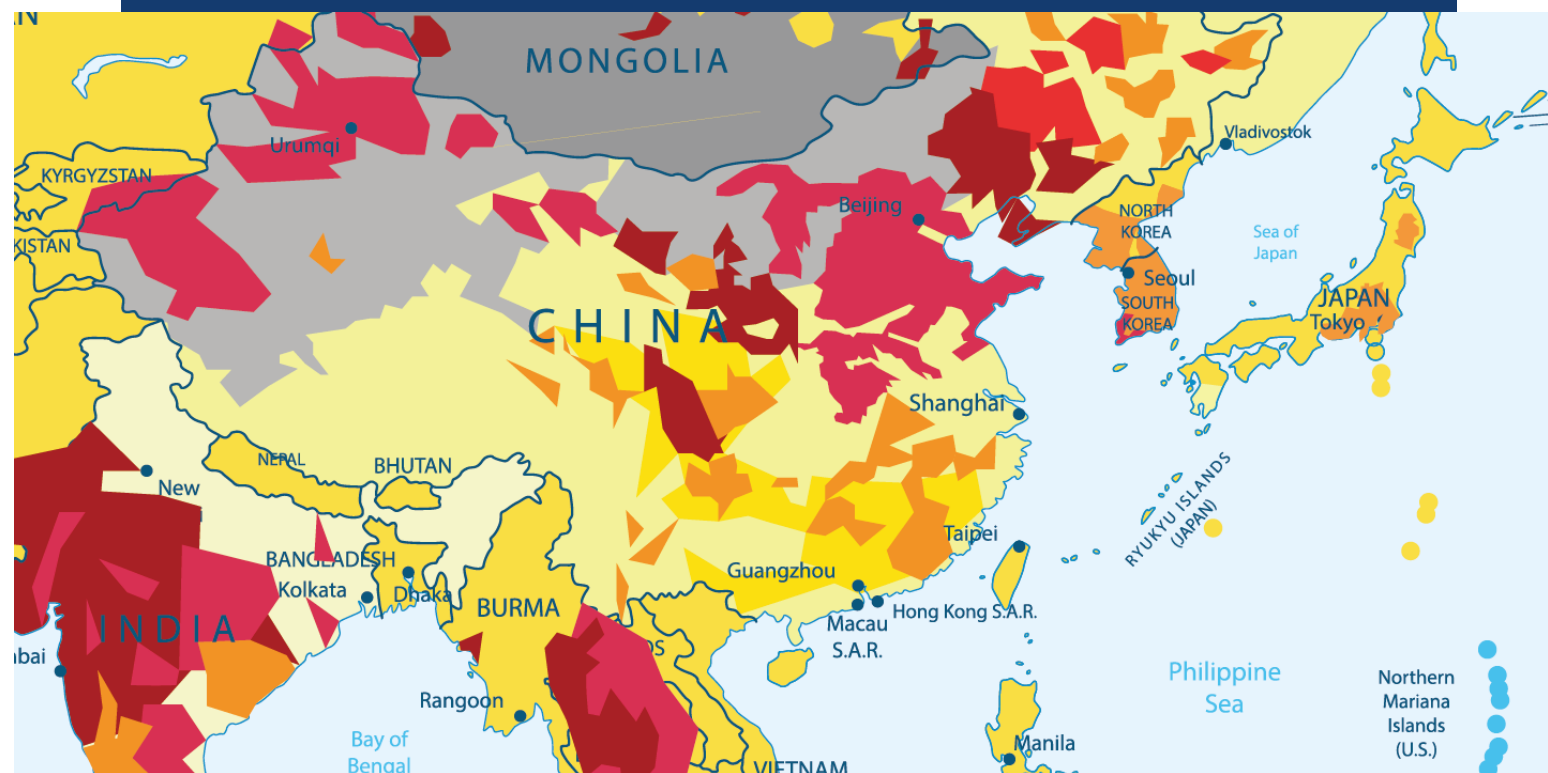
地球上の水資源は、私たちの暮らしと産業活動を支える不可欠な基盤です。しかし近年、気候変動や人口増加により、水不足や水質悪化といったリスクが地域ごとに深刻化しています。こうした課題に対し、今企業に求められているのが「水資源のステュワードシップ（責任ある管理）」です。

本ホワイトペーパーでは、国際的な枠組みであるAlliance for Water Stewardship(AWS) の概要をご説明し、水に向き合うためのヒントをお届けします。

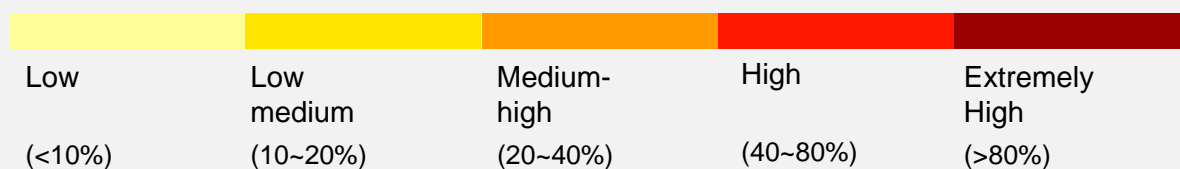
01 なぜ“水資源管理”が今必要なのか？

地球上で利用可能な淡水は全水資源のわずか0.01%。気候変動や人口増、産業構造の変化によって、世界各地で“水の危機”が顕在化しています。日本も例外ではなく、地域ごとに異なる水問題を抱えています。

水資源は“偏在性”がある

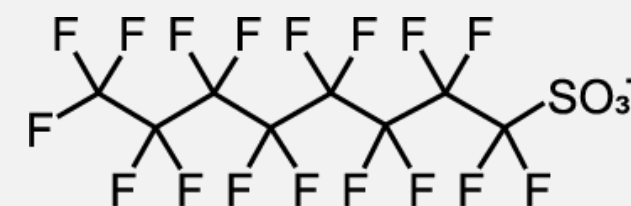


Water Stress



出典：Aqueduct Water Stress Mapを基に作成

日本においても地域によって様々な水課題



PFOS/PFOA



配管の老朽化



水害

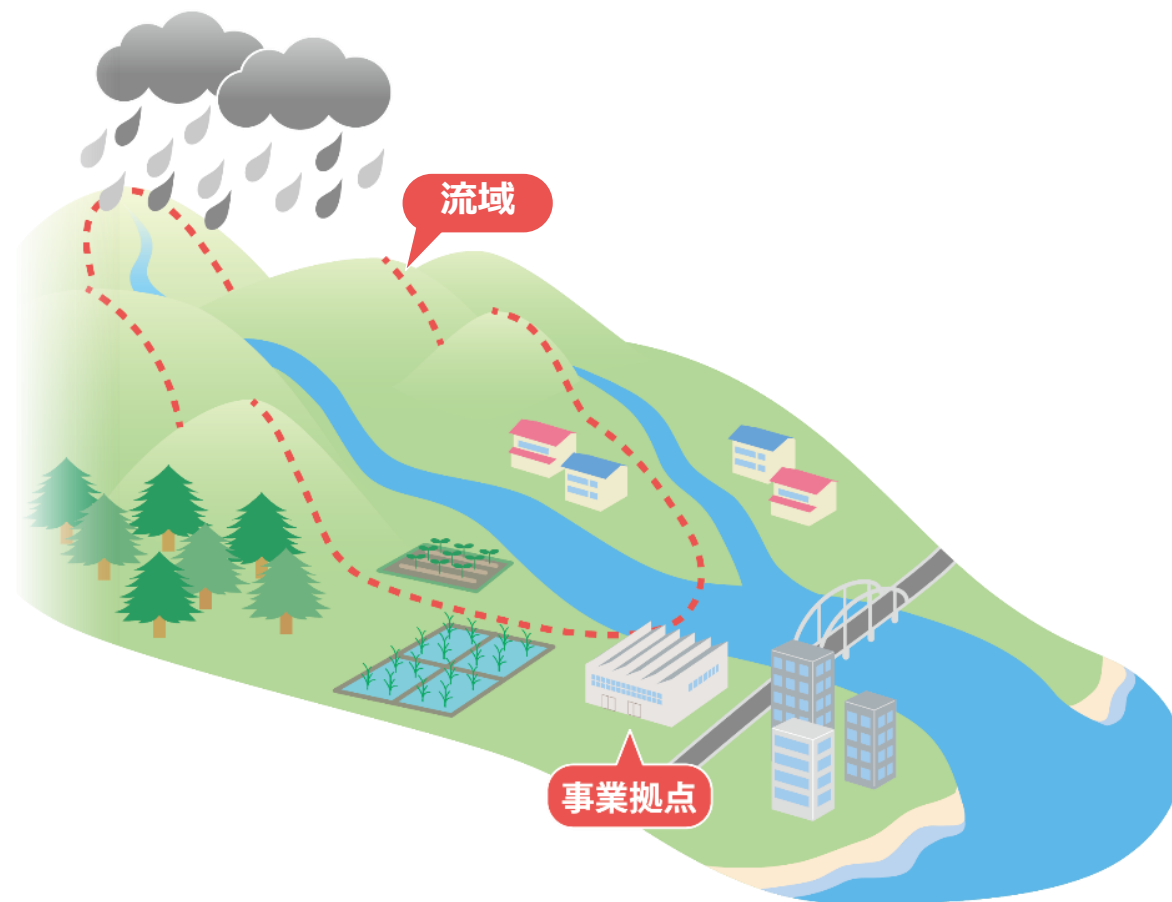


森林の劣化

「水を管理する」とは単に節水することではありません。
 どこから水を得て、どう使い、どう戻すのか。そしてその影響はどこに及ぶのか。
 水資源管理とは、“流域全体”を見据えた連携行動です。

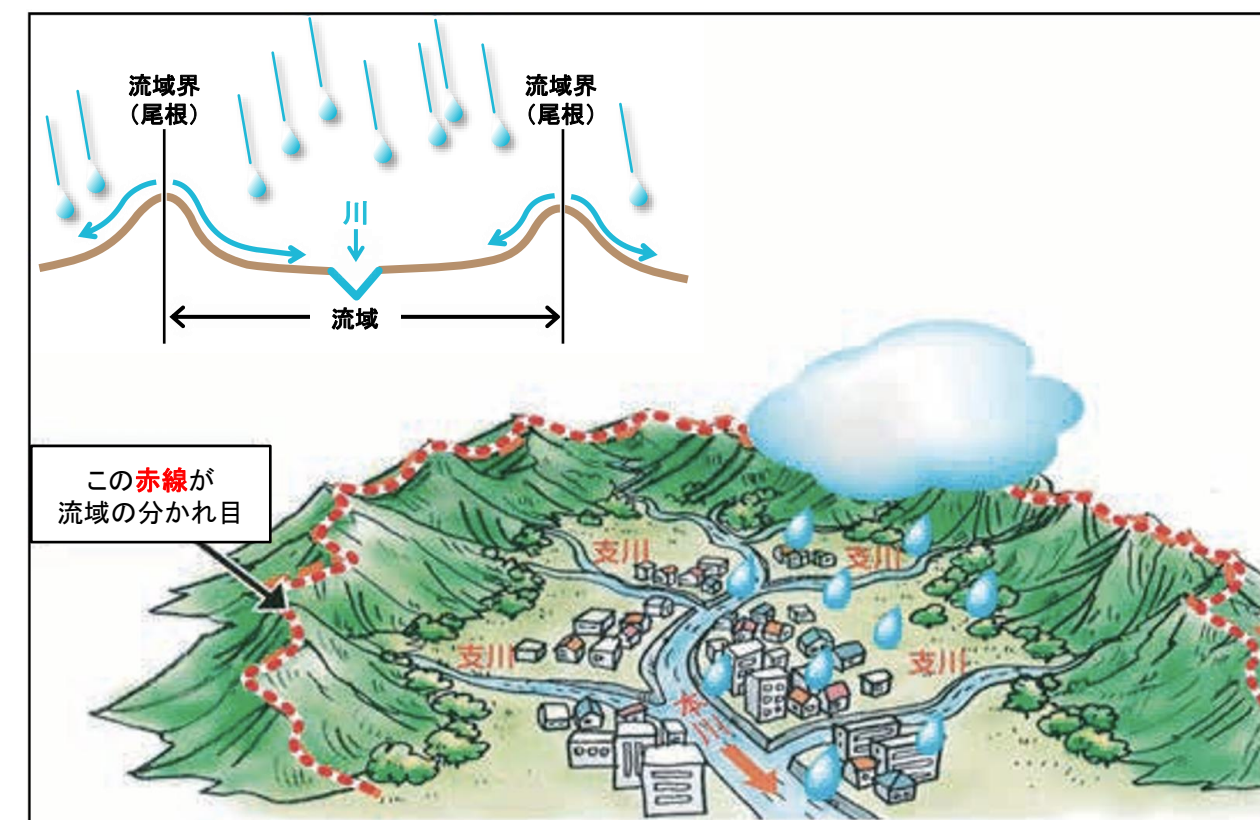
“流域”とは？

降った雨や地下水が集まる、地理的な**範囲**



水資源は“流域”ごとに抱えている課題も様々

“流域”単位で課題を認識する必要がある



出典:「流域マネジメントの手引き 改訂版」内閣官房水循環政策本部事務局 一部改変

水は、経営に欠かせない資源のひとつです。

そのために、水に起因するリスクは事業継続に重大な影響を及ぼします。

世界で生じる様々な水問題

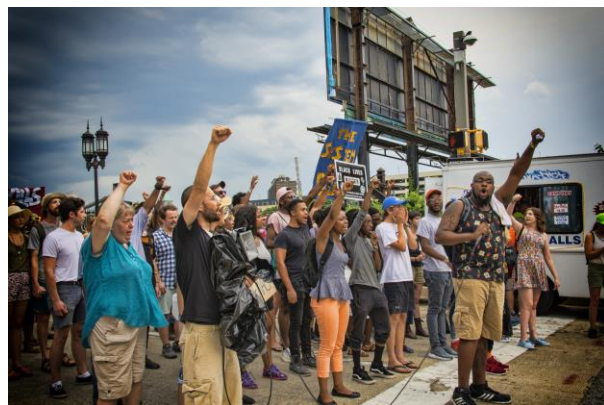
ハリケーン災害



台風・水害



水ストレスの高まりと排斥運動



河川等の水質悪化と規制強化



干ばつ



04 AWS (Alliance for Water Stewardship) とは

水は流域内で共有される資源であり、水リスクの解決には共通のルールと連携が必要です。
Alliance for Water Stewardship (AWS) は、水資源管理の枠組みを提供する国際的な非営利団体です。



出典：AWS HP

ビジョン

人々、文化、ビジネス、そして自然が繁栄できる、水の安全が保障された世界

ミッション

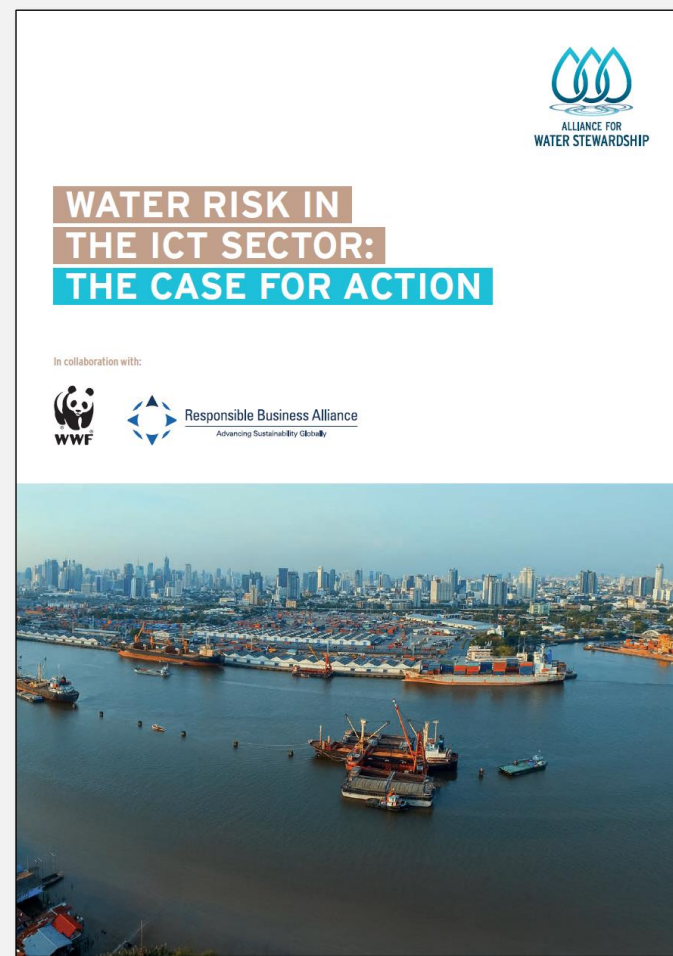
淡水の**社会的、文化的、環境的、経済的**価値を認識し、ウォーター stewardshipにおける世界と地域のリーダーシップの育成

特徴

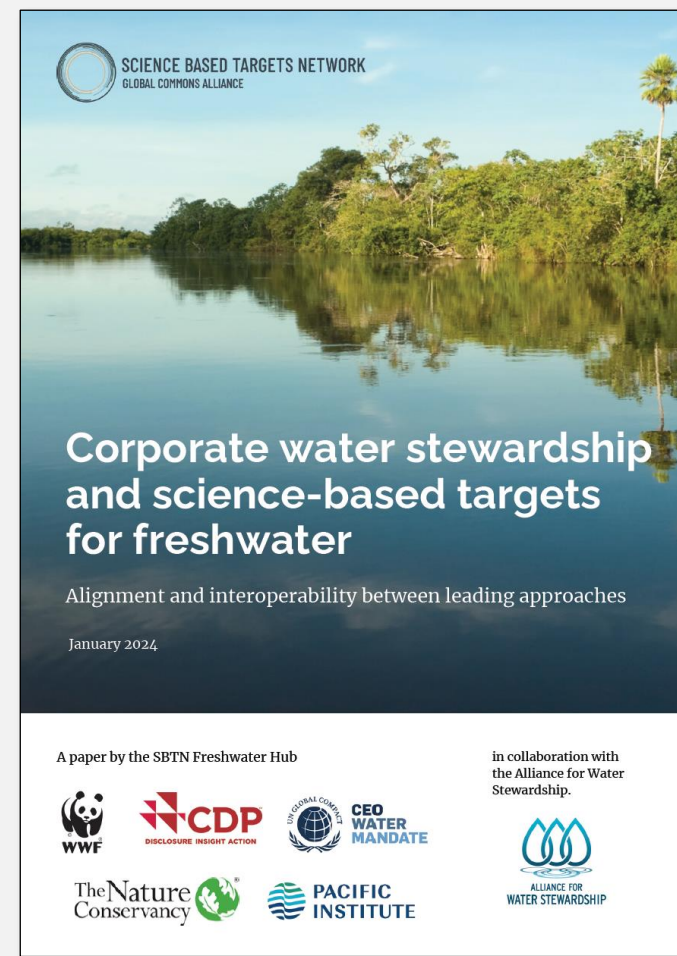
持続的な水資源管理を行うために、活動範囲として**“流域”**に着目

04 AWS (Alliance for Water Stewardship) とは

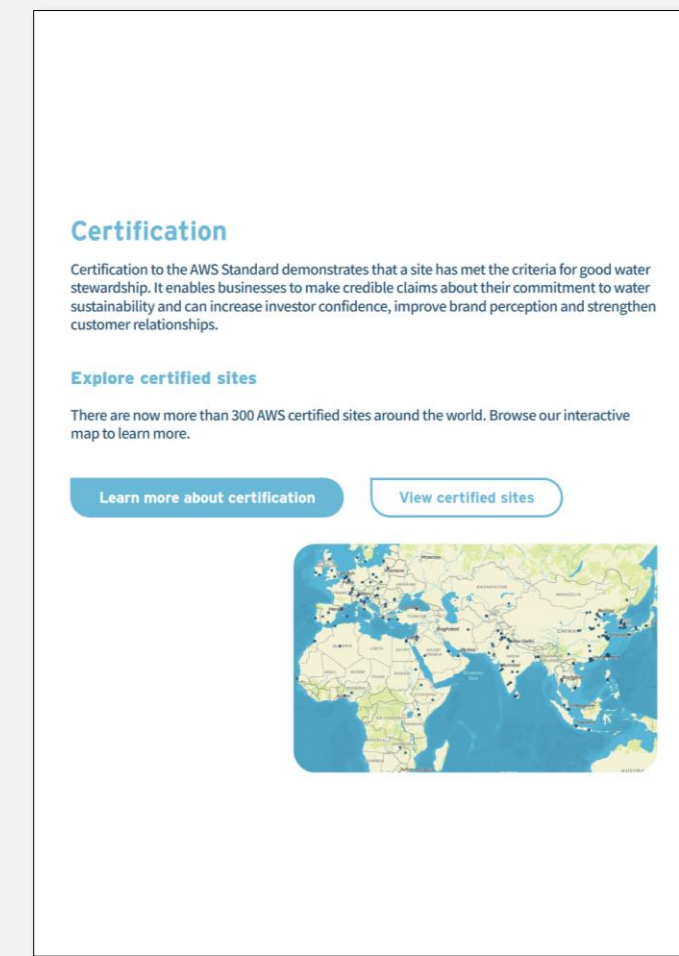
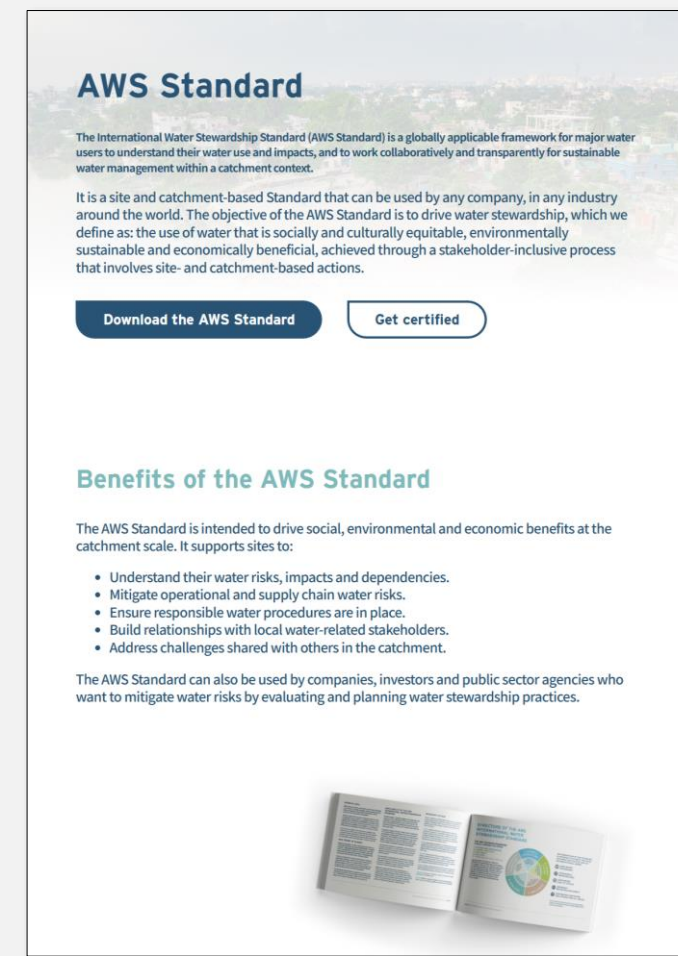
AWSはウォーターズチュワードシップの実現に向け、
様々な調査レポートの発行や水資源管理に関する第三者認証を提供しています。



出典：AWS HP



出典：SBTN HP



セクター固有の水リスクレポートや
他のイニシアチブと共同レポートの公開

水資源管理の方法論“AWSスタンダード”や
適切な水資源管理に関する第三者認証の提供

ウォーターシュワードシップを実践するために作られたのが、**AWSスタンダード**と呼ばれる水資源管理基準です。

AWSスタンダードは、流域の持続的な水資源管理を行うための方法論の1つとして、水に関わる様々なステークホルダーとコミュニケーションを行うことを組み込んでいます。

目的

① 社会・文化的に公平

② 環境的に持続可能

③ 経済的に有益

な水の利用を流域のステークホルダーとの協働を通して実現

AWSスタンダードは**5つのステップ**から構成されています。

そして、流域における持続的な水資源管理を行ううえで意識すべき5つの項目を掲げています。

AWSスタンダードの5つのステップ



1. 情報の収集と理解
2. コミットメントと計画策定
3. 実施
4. 評価
5. コミュニケーションと情報開示

AWSスタンダードが重要視している5つ項目

THE STANDARD ACHIEVE FIVE MAIN OUTCOMES:



GOOD WATER
GOVERNANCE

グッドウォーター
ガバナンス



SUSTAINABLE
WATER
BALANCE

持続的な水収支



GOOD WATER
QUALITY
STATUS

良好な水質



IMPORTANT
WATER-RELATED
AREAS

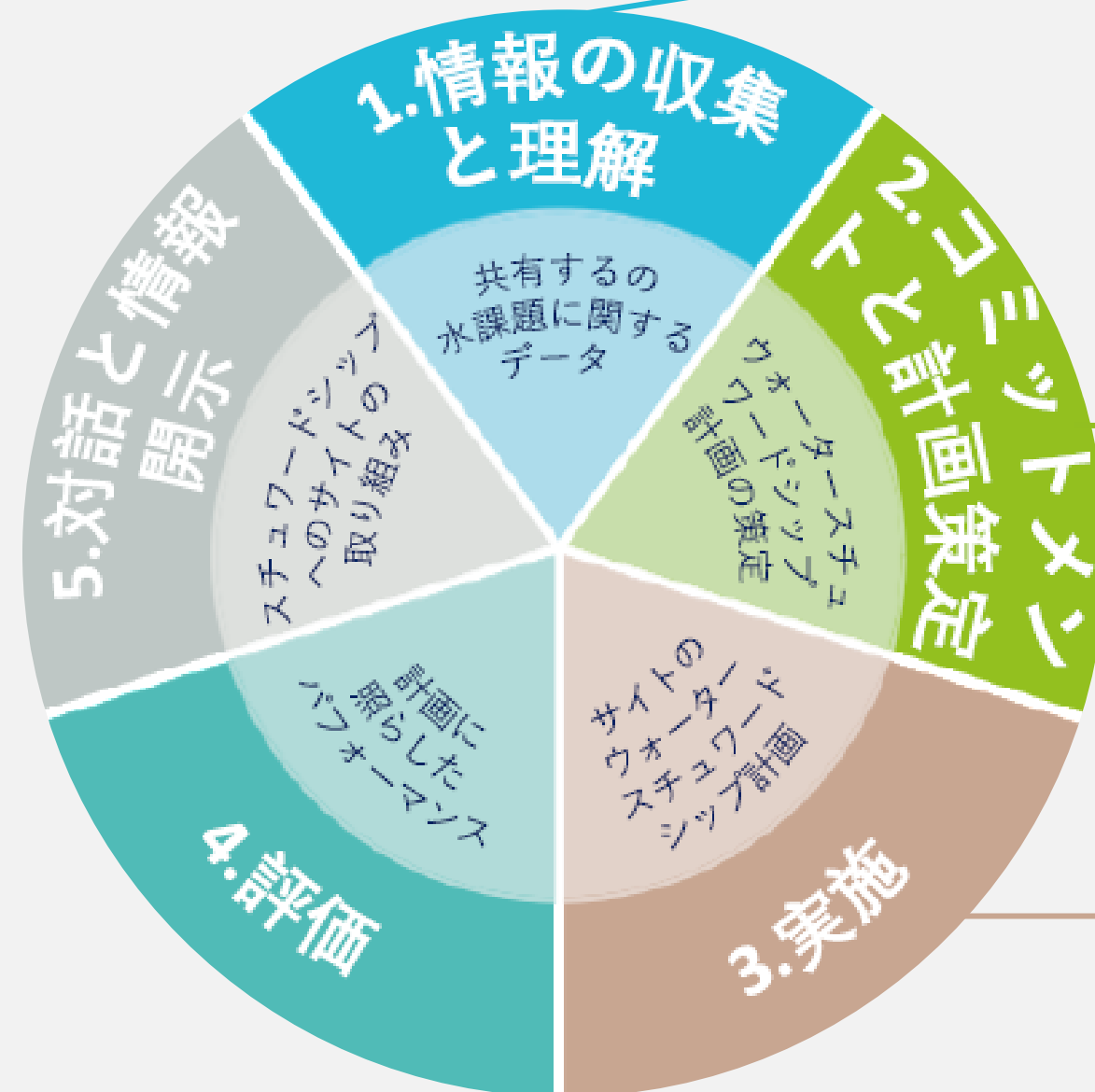
重要な水関連エリア



SAFE WATER,
SANITATION
AND HYGIENE
FOR ALL (WASH)

すべての人への
安全な水と衛生
環境 (WASH)

参考 STEP 1, 2, 3における活動例



持続的な水資源管理に向けたの5つのステップ

STEP 1. 情報の収集と理解

- ・ **サイトおよび流域内の水関連情報の収集・整理**
→ サイト内の水管理状況の整理、流域境界や使用している水源の特定 など
- ・ **ステークホルダーコミュニケーション**
→ ステークホルダーとのコミュニケーション・流域課題の抽出 など

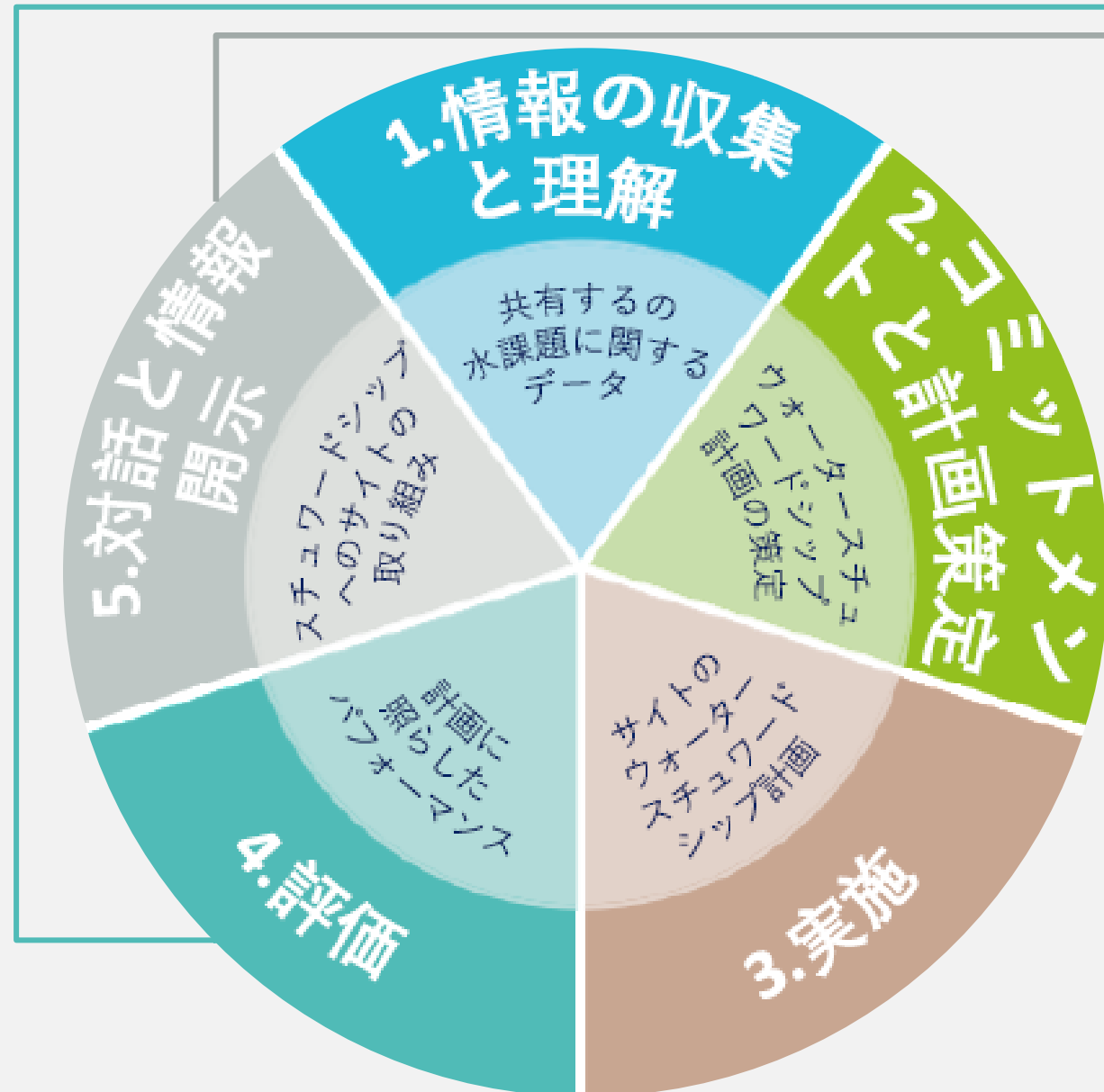
STEP 2. コミットメントと計画策定

- ・ **リスク低減目標や施策の検討**
→ STEP 1で整理した情報を基に、課題解決に向けた目標・施策の検討 など
- ・ **サイト内のガバナンス体制整理**
→ 施策を進めていく際の体制整理補助や計画実施スケジュールの策定 など

STEP 3. 実施

- ・ **リスク低減施策の実施**
→ サイト内の体系的な水管理基準（例：ISO46001）の実装、節水施策の検討、流域水資源の健全性に質する森林保全活動の実施 など
- ・ **ステークホルダーとの協働施策の実施**
→ ステークホルダーを巻き込んだ協働施策の実施 など

参考 STEP 4, 5における活動例



持続的な水資源管理に向けた5つのステップ

STEP 4. 評価

- ・ **保全した森林の多面的機能の評価**
→ 森林の機能である水源涵養、生物多様性の効果を定量的に評価 など
- ・ **サイト地下水位の変動評価**
→ STEP 1でサイトのモニタリング状況に不足があると判明し新たにモニタリングを開始した場合は、得られた水位変動を整理し傾向を評価 など
- ・ **サイト排水の水質測定**
→ サイト排水の水質を測定し、排水基準の順守状況を評価 など

STEP 5. コミュニケーションと情報開示

- ・ **取り組んだ内容の外部発信**
→ STEP1~4の活動内容を、他の情報開示の枠組み（CDP、TNFDなど）に組み込んで開示
- ・ **ステークホルダーとのコミュニケーション**
→ STEP1~4の活動内容を流域ステークホルダーへ報告し、次年度の活動検討に向けたフィードバックを得る

AWS認証取得を目指す場合

AWSスタンダードに沿った水資源管理システムを導入したことを検証する認証制度が存在します。認証を取得するためには、ステップ1～5の活動内容を第三者が理解できるよう文書化する必要があります。

AWS認証を取得する際の手順

① 事前作業

AWSメンバー登録
AWSシステムトレーニング※
認証取得予定サイトの登録

※流域の水資源管理を行うことの重要性や方法論に関するオンライントレーニング
 定期的で開催されるが、12人以上集まる場合は個別のトレーニングを開催することが可能

② AWSスタンダードの実装

各ステップに沿った活動を実施

- 1：情報の収集と理解
- 2：コミットメントと計画策定
- 3：実施
- 4：評価
- 5：コミュニケーションと情報開示

③ 認証監査

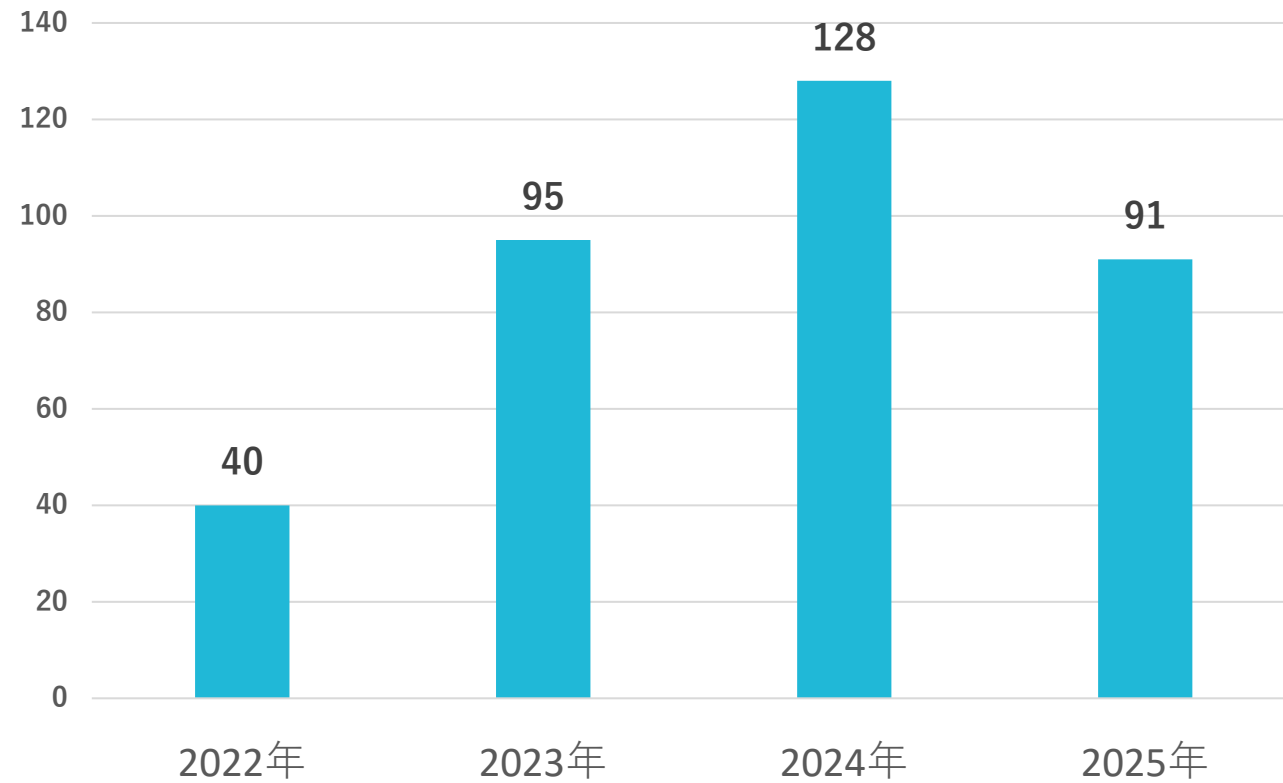
デスクトップ監査
オンサイト監査※
監査後のギャップ対応

※オンサイト監査では、資料の確認だけでなく流域内のステークホルダーとしっかりコミュニケーションを取れているかも確認されます。

監査後のギャップ対応を通し、
 水資源管理のさらなる改善につなげます

AWS認証を取得するサイトは年々増加しています。

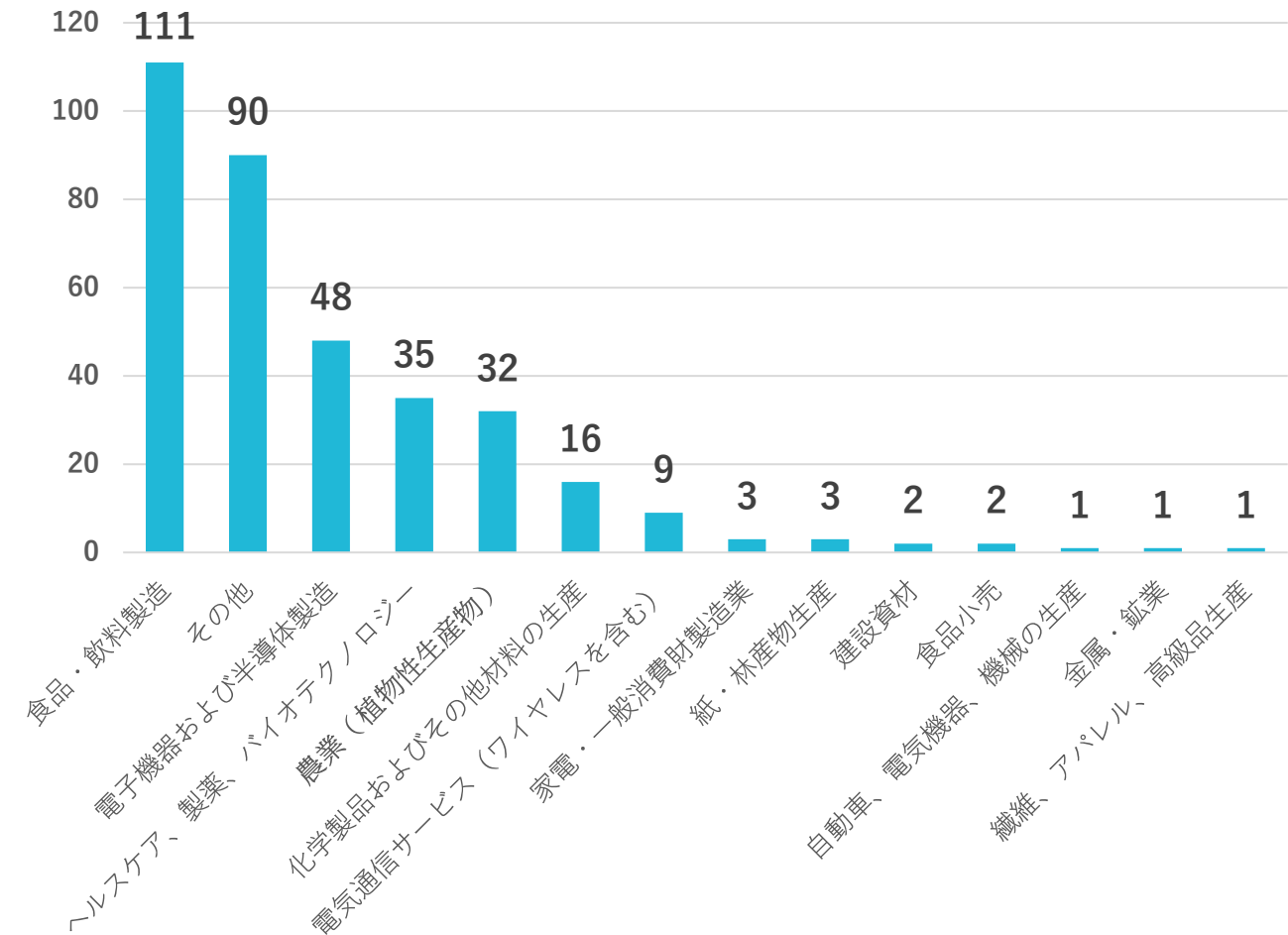
AWS認証取得サイト数



※サイトが認証を取得 (or 更新) した年

AWS認証は認証取得から3年後に更新審査を受ける必要があります
2021年に認証を取得したサイトで2024年に更新の監査を受けている場合は
2024年のサイト数にカウントしています

セクター別AWS認証取得サイト数



※「その他」は主にタバコ製造業が該当

日本企業では、サントリーホールディングスとコカ・コーラボトラーズジャパンの2社が取得しています。

日本企業のAWS認証取得サイト

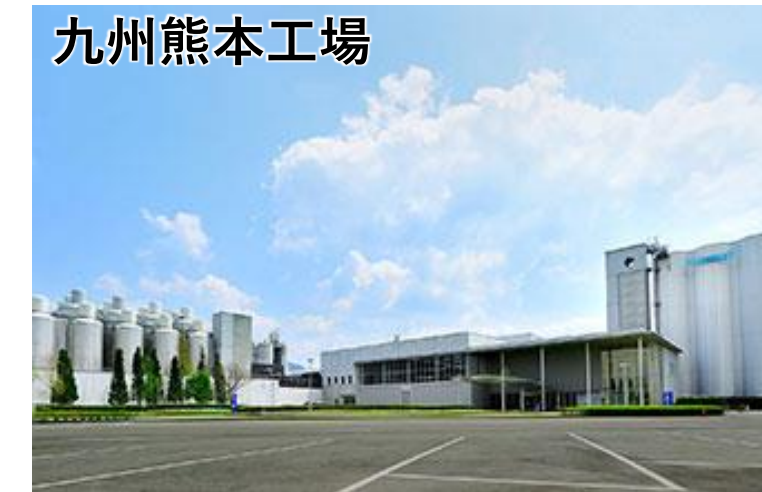
サントリー
ホールディングス



奥大山ブナの森工場



南アルプス白州工場



九州熊本工場

出典: サントリーホールディングスHP (https://www.suntory.co.jp/company/csr/env_water/aws/?fromid=factory_water)

コカ・コーラ
ボトラーズジャパン



白州工場

出典: コカ・コーラボトラーズジャパンHP (<https://www.ccbji.co.jp/news/detail.php?id=1629>)

サステナビリティNaviは、**60年以上の建設コンサルティングの知見と自然科学に基づき、**
ウォーターシュワードシップを目指す企業を支援します。

特徴①**AWSスタンダード
実装支援**

国際標準に基づいた水管理基準を
導入する際のサポートを行います。

特徴②**AWS認証取得支援**

AWS認証取得を目指すサイトに対
し、流域課題の特定や監査用資料の
作成など認証取得に向けたサポート
を行います。

特徴③**ステークホルダー
エンゲージメント支援**

流域課題の解決は単独では達成でき
ません。流域内の行政や民間組織な
どとのコミュニケーションや協働を
サポートします。

「ジャパン・ウォータースチュワードシップ」について
サステナブルな水の国際認証機関AWSが日本での活動を強化
日本メンバー5社が「ジャパン・ウォータースチュワードシップ（JWS）」に参画

JWS（Japan Water Stewardship）への参画

参画企業

- ・ 八千代エンジニアリング株式会社
- ・ MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
- ・ 栗田工業株式会社
- ・ サントリーホールディングス株式会社
- ・ 日本コカ・コーラ株式会社

AWS (Alliance for Water Stewardship) の支援は サステナビリティNaviにお任せください。

AWSの導入から実践まで、**私たちが伴走します。**

生物多様性・水資源・気候変動——これらは“経営のテーマ”です。

サステナビリティNaviは、**企業の皆さまと共に、持続可能な未来をつくる戦略パートナー**です。

無料相談を実施中！

[お問い合わせ](#)

CLICK



サステナビリティ Navi
YACHIYO Engineering

yec 八千代エンジニアリング株式会社

〒111-8648 東京都台東区浅草橋5-20-8 CSタワー
電話：03-5822-6800 受付時間 10:00~15:00(月~金) Mail：sustainability-navi@yachiyo-eng.co.jp
ウェブサイト：<https://sustainability-navi.com/>